

糖尿病ふれあい通信

第235回 2020年7月号

みなさんこんにちは。梅雨明けも間近です。これから暑くなりそうですね。熱中症対策を実施しましょう。今回は「小川先生から」のお話です。

～ Clinical Inertia(クリニカルイナーシャ) ～

コロナ自粛のため、糖尿病教室で皆様にお会いできず大変残念です。今回は日々の糖尿病治療に役立つ情報というよりも、最近の話題をご紹介します。

皆様は**Clinical Inertia(クリニカルイナーシャ)**という言葉をご存じでしょうか？「臨床的惰性」などとも訳され、最近よく耳にするようになりました。**患者さんが治療目標に達していないのに、適切な治療が行われていない状態**を意味します。糖尿病の領域に限らず、医療全体が抱える課題の一つです。

要因としては、**医療従事者側の情熱の問題と、患者さんの心理の見誤った解釈**です。患者さんがやる気になって頂くのを待つことが大切な場合もありますが、それを無策で様子を見てしまうのは、私たちの存在意義が問われます。

失敗が許されず、責任が重い医療の現場では「事なかれ」になりがちですが、いろいろと理由をつけて静観してしまうのは、医療従事者の情熱の欠如かもしれません。

例えば、患者さんがインスリン療法を躊躇する理由を医療従事者側は「針が怖い」「注射が面倒」と思い込んで、「今の針は痛くないですよ」とか「最近の注射は簡単ですよ」と説得しがちです。しかし患者さんがインスリン療法を躊躇する理由としては、「人前でインスリンを打つことに抵抗がある」、「経済的に不安」という深い部分のことも少なくありません。

したがって**患者さんのことをわかろうとする、あれこれと試行錯誤する努力、医療者と患者さんが腹を割って話し合える環境が必要だ**と思っています。偉そうに書いていますが、私も反省しながら日々取り組んでいます。



みょうがは特記すべき栄養素としてはありませんが、フィットケミカルとして香り成分の「 α -ピネン」には神経の興奮を抑え、ストレスを緩和する効果があるとされており、発汗作用や消化促進にも効果があります。少しずつ薬味として摂るようにしましょう。

今月の旬の食材『みょうが』



参考：
わかさ生活
ホームページ

次回糖尿病教室

7月の糖尿病教室は感染対策のため、中止となりました。

8月の教室開催は未定です。

クリティカルイナーシャの要因

医療従事者に関連する要因

- 医療費に関する懸念
- 副作用の懸念
- 個別医療に対する抵抗感
- 複雑化する治療に対する患者の管理能力に関する懸念
- 時間的制約

など

患者に関連する要因

- 糖尿病の転帰に対する認識の欠如
- 血糖コントロール不良に対する認識の欠如
- 副作用の懸念
- 薬が増えることへの懸念
- 治療費への懸念

など



医療システムに関連する要因

- ガイドラインの欠如
- 通院計画の欠如
- 治療に対しチームとしてのアプローチがされていない
- 疾病登録がされていない
- 患者への積極的な支援の欠如
- 医師と医療スタッフのコミュニケーションが不十分

など

医療法人社団恵心会 京都武田病院 病態栄養科 電話075-312-6739